

令和元年度下期認定分 ましこ世間遺産一覧

| No. | 世間遺産の名称 | 申請団体 | 場所 |
|-----|--|--------------|-------|
| 47 | <small>な ぼ た め こ ふ ん ぐ ん</small> 生田目古墳群 | 生田目自治会 | 大字生田目 |
| 48 | <small>な ぼ た め じ ょ う あ と</small> 生田目城跡 | 生田目自治会 | 大字生田目 |
| 49 | <small>や ま か み さ い れ い</small> 山の神祭礼 (<small>や</small> どんど焼き) | 小泉・本沼・梅ヶ内育成会 | 大字小泉 |
| 50 | <small>ひ が ん ば な か い ど う</small> 彼岸花街道 | 梅ヶ内彼岸花ボランティア | 大字梅ヶ内 |

認定No.47 生田目古墳群

申請団体 生田目自治会

生田目公民館に隣接し、小高い丘を200m登ったところに全7基中5基の円墳を主体とする古墳群。現在、四号墳は完存で円墳の姿がよく見ることができ、三・七号墳は石祠が祀られている。かつて、この地で山の神を祀る「どんど焼き」が行われていたと言われている。



また、近くの高籠神社には和合神が鎮座し、昔から子宝・縁結びの神として村人の信仰を集めている。さらに、隣接する北側には県内でも数少ない貴重な弥生時代の車堂遺跡も有している。丘の上にあることから眺望もよく、天候にもよるが、朝夕には道の駅と根本山の間地点に富士山が小貝川の頭上に見える。

認定No.48 生田目城跡

申請団体 生田目自治会

県道41号線の東側山麓地帯の小高い山の上に広がる平山城跡。城主ははっきりとわかっていないが、益子氏の家臣に生田目氏がいたことから、その居城であると思われる。

現在も土塁・空堀りの一部・井戸跡が残っている。また、城内に正覚寺跡



地があり、後に建てられたと思われるお堂とともに厨子も残されている。お堂の南西には当時のお坊さんの石碑も数基残されている。また、この正覚寺は益子小学校の前身となる私立日新館であったと言われている。

さらに、城山のすそ野には、小川が流れており、6月中旬にはたくさんのホタルが乱舞しており、育成会で毎年鑑賞会を実施している。

認定No.49 山の神祭礼（どんど焼き）

申請団体 小泉・本沼・梅ヶ内育成会

子どもの無病息災などを願う、山の神祭礼（どんど焼き）。

地域の子ども会にあたる小泉梅ヶ内育成会が、戦前に行っていたとされる同様の催しを 1970 年後半に復活させたのが始まり。近年、少子化に伴い、どんど焼きなどの伝統行事が激減する町内にあって、40 回以上の開催となっている。

このような伝統行事は、子どもたちが郷土愛を育む機会となっているほか、青少年の健全育成と老若の交流を図る場にもなっている。



認定No.50 彼岸花街道

申請団体 梅ヶ内彼岸花ボランティア

梅ヶ内地区は人里として、益子町の最南端に位置し、水も空気もおいしい自然豊かな地域。集落の特徴は過疎化、高齢化が特に進み、現在 10 戸となってしまったが、先人たちが残してくれた彼岸花を約 2 km にわたり、約 40 年をかけて 100 万本に増やし、「彼岸花街道」として景観の維持管理を継続している。



彼岸花街道の終着地点には、駐車場も整備していることから、ゆっくり時間をかけて見ることができるほか、沿道にあるため、Uターンすれば、行きと帰りの両側から見ることができる。体の不自由な方も車から見ることができる喜びられている。

先人たちが残してくれた貴重な自然の宝物をこれからも大切に維持管理をし、次世代へとつなぎ後世に残していきたい。